

授業のデザイナー

校長 鈴木隆志

子供たちが憧れる人気職業ランキングによると、ファッションデザイナー（7位）、イラストレーター（17位）、インテリアデザイナー（33位）、グラフィックデザイナー（34位）、ゲームグラフィックデザイナー（46位）、フラワーデザイナー（47位）、ゲームデザイナー（48位）、インダストリアルデザイナー（67位）、ブックデザイナー（77位）、キャラクターデザイナー（79位）というように、デザイナーになりたいと思う子がたくさんいます。一口にデザイナーと言っても多岐にわたりますが、視覚的にその物を美しくするために、形・模様・レイアウト等に工夫を凝らす人たちのことをデザイナーと呼んでいます。

もう少しデザイナーについて知りたいと思い、六本木の東京ミッドタウンにある「21_21 DESIGN SIGHT」に行ってみました。建築家・安藤忠雄による瀟洒なデザインのギャラリーでは、三宅一生（ファッションデザイナー）、佐藤卓（グラフィックデザイナー）、深澤直人（プロダクトデザイナー）、川上典李子（デザインジャーナリスト）の4名のディレクターが企画をした展示が催されています。デザイナーと使い手とがつながっていることを実感できるギャラリーでした。

「デザイナーに向いている七つの気質」というSNSの記事が目にとまりました。私自身の気質を

- ① 日常生活のふとしたときに目に入ってくるものが気になる。
- ② 細かいことにこだわる。
- ③ 人々の問題を解決することが大切だと思っている。
- ④ 既存の概念に捕らわれるのは嫌だ。
- ⑤ コミュニケーションが得意だ。
- ⑥ タイムマネジメントが得意だ。
- ⑦ クリエイティブである。

振り返ってみると、①から⑦におよそあてはまったので、私もデザイナーに向いているのかもしれないと思ってしまいます。それはともかく、教師にとってこれらの気質はとても大事だと考えます。

学校の教師には、「授業をデザインする力」が求められています。いわば、授業のデザイナーです。何よりも、デザイナーである教師と使い手である子供たちが、強くつながっていることが大事です。どんな教材や題材を用意するか、子供たちの実態に合った指導のねらいになっているか、子供たちが関心や意欲をもつような「楽しい始まり」の工夫はあるのか、学習形態はどうするか、授業の流れはどうか、どんな資料を提示するか、ノートやワークシートをどう使うか、発問や板書をどうするか、授業の中で「わくわくする瞬間」があるのか、「明日は何を学習するのだろう。もっと知りたい。」という思いにつながっているか等々、様々な要素を考えて、教師は授業をデザインしていくのです。授業は、リハーサルややり直しがない一発勝負の学びの場です。それ故に、教師はさらによい授業を目指し、日々、自分の授業を振り返り、自己批判、自己改善の努力を続けています。授業を振り返り改善していくためには、子供とつながっていること、つまり、子供の視点で感じる事が大事です。

子供たちには、授業の受け手として参加するだけでなく、教師や仲間とともに授業を創っていくという思いをもってほしいと願っています。宿題をきちんとやってくる、学習用具を忘れない、予習をしてくる、そして、積極的に発言する、自分の力で考える、仲間同士で考えを共有し合い学び合う、何ができるようになったかを振り返る、といった活動を繰り返すことによって、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力」を身に付けてほしいのです。光っ子たち、頑張り！